

**[and とカンマ]** ここでは and を取り上げます (抄)。

大手企業の幹部から、契約書の and とカンマの意味を誤読して相当な損害金を払わされた、と聞いたことがあります。

学校教育でないがしろにされてきたせいでしょうか、and が何と何を繋いでいるのか、and の前後で論理はどう流れているのかを、意識せずに読んでいる人が多いようです。でも、and とカンマが分らなければ英文を明晰に読むことはできないのです。

and はカンマ、記号とセットで用いられることが多く、この三つをマスターすれば、英文読解力は少なくとも 20%は上がるといえます。そして、一週間もあればこの三つは簡単に習得できるのです。

例えば、こんな単純な文でも、けっこう奥は深いもの。

A sailor, and he is afraid of the sea.

・ and とくれば「そして」と訳し、カンマの意味に無頓着なのが、初心者。

**「船乗り、そして彼は海を怖がる」**

これではいくら英語をやっても上達しません。

・ 並列の and と読み取り、カンマは文の区切りだと意識する 《(He is) a sailor, and he is afraid of the sea.》のが、中級者。

**「船乗りであって、彼は海を怖がる」**

このままでは文の概要しかつかめません。

・ 逆接の and と理解し、but の意味で訳す 《(He is) a sailor, but he is afraid of the sea.》のが上級者。

**「船乗りなのに、彼は海を怖がる」**

このレベルで初めて英文が読めたといえます。

・ さらに最上級者ともなれば、文頭の名詞句(a sailor)が主題を、カンマ+and 以下がそれに対する意外性を、付加的に示すと見抜きます。

**「船乗りのくせに、海が怖いなんて」**

ここまですれば翻訳家にもなれるでしょう。

潜在需要はとともあるはずなのに、いままで取り上げられずにきたこのテーマ。英語は論理的な言語ですから、and とカンマにも読み方の理屈があるのです。理屈がわかれば英語の苦手意識は消え、英文を読むのが楽しくなるでしょう。

## 1 並列\*の and

「並列」\*とは、前後の目方が同じ(狭義:「対等」との言い方をすることもある)、前後の目方がほぼ同じ(広義:「等位」との言い方をすることもある)、を指すものとします。この I、1 では、狭義の意味で使います。

### ・並列の規則

並列の and の規則はたったこれだけ。

(1)(i) 同一の品詞、(ii) 同一の形、(iii) 同一の役割、のものを並列で結ぶ。

(2) 1, 2, 3, — , and N (N は任意の数)

\*アメリカ英語では、1, 2, 3, — and N となる

(3)(i) and が省かれているのは

- ・リズム重視、または
- ・列挙が未完了、の場合

(ii) 1 and 2 and 3 — and N の形をとるのは、

- ・各部分を強調する場合

### ・易しい文例

(1)(i) The film starred **Jean Pia** and **Jane Fonda**. (名詞の並列)

「映画の主演はジャン・ピアとジェーン・フォンダだった」

(ii) Time **runs** by and **is** gone. (現在形の並列)

\*by は副詞、gone は形容詞

「時は過ぎ去る」

(iii) I found her **intelligent** and **friendly**. (補語の並列)

「彼女が聡明で親切なのがわかった。」

もう少し詳しく述べると、and の前後は

- ① 品詞が同じ (名詞と名詞、副詞と副詞、形容詞と形容詞、…)
- ② 機能が同じ (主語と主語、述語と述語、目的語と目的語、…)
- ③ 時制が同じ (現在と現在、過去と過去、未来と未来、…)
- ④ 格が同じ (上位概念と上位概念、下位概念と下位概念、…)
- ⑤ 要素が同じ (単語と単語、句と句、節と節、文と文、…)
- ⑥ 範疇が同じ (抽象名詞と抽象名詞、具象名詞と具象名詞、同じ分類項目、同じ観点、…)

のように、前後のバランスがとれているのが、由緒正しい並列。だが、**実際にはこのバランスが崩れている場合も結構ある**(句と節、具象名詞と抽象名詞、名詞と副詞、現在形と現在完了形…など)。

上の例にあてはめれば、

(1)(i)の並列は、名詞。目的語。単語。人名。

(ii)の並列は、動詞。述語。現在形。動詞句(run by)と動詞+形容詞(is gone)。

(iii)の並列は、形容詞。目的補語。単語。人間の性質。

(2)He is a kind, wise, and diligent boy.(英用法)

または

He is a kind, wise and diligent boy.(米用法：andの前にカンマがない)

「あの子はやさしくて、かしこくて、よく働く」

(3)(i)We are a nation of flower-lovers, but also a nation of stamp-collectors,

pigeon-fanciers, amateur carpenters, coupon-snippers, darts-players, crossword-puzzle fans.

「我々は花を愛でる国民であるが同時に、切手を収集し、鳩を飼い、日曜大工をし、クーポンを集め、ダーツに興じ、クロスワード・パズルを楽しむ国民でもある」

(ii)But what about potatoes and cabbages and carrots and onions?

「でもジャガイモとかキャベツとかニンジンとかタマネギはどうなんだ」

簡単でしょ。でも、いろいろ変形があって難しくなる。

#### ・理解を深める

(以下はセミナーにて…)

#### ・andのはたらき

大きく分けて次の六つ(この分け方は著者の恣意的なもの)。どれにあたるか常に意識すると、論理の流れがしっかり読めるようになる。

(1)**対等** (狭い意味での並列。andの前後のいわば資格が同じ。単語なら対句、文なら対比が多い)

代表的な訳語\*：「…と」(「また」)

(2)**ゆるい順接** (対等に近い。ほぼ同時性を示すか、前からすんなり意識が流れる)

代表的な訳語\* : 「また」(「そして」)

(3)きつい順接 (時間の流れが感じられるか、少し因果が感じられる)

代表的な訳語\* : 「そして」

(4)前節の帰結 (and をはさんで、因果がはっきりしている)

代表的な訳語\* : 「それで」

(5)逆接 (but に近い)

代表的な訳語\* : 「なのに」

(6)付加 (後半部分を強調する)

代表的な訳語\* : 「それも」

\*訳語は便宜的で、これにとられるものではない。

## ・易しい文例

(1)対等

He is a writer and singer.

「彼は作家兼歌手だ。」

(作家で歌手、彼は二つの職業を兼ねている)

(2)ゆるい順接

All of us sleep and dream.

「だれも皆、眠り、夢をみる。」

(「眠りながら夢を見る」とも「眠って夢を見る」とも訳せる。眠るのと夢を見るのが一体だとも、眠ってから夢を見る時間差とも、眠ることと夢をみることを並べただけとも、どうとでもとれる。というかそれら全部を含めて、ぼやっと言っている。読み手の意識も and の意味を分析的に考えることなく、sleep して dream する、と前からすんなり流れてゆく。)

(3)きつい順接

We had a week in Paris and went to Tokyo.

「一週間パリにいて、東京へ行った。」

(「パリ滞在のあと東京へ…」「パリに寄って、東京へ…」とも訳せる。動詞が同じ時制で並んだ場合の行為の順序は、当然ながら前が先、後ろがあと。and の前後が時系列で流れている。その時間の流れを、ゆるい因果と考えることもできる。

(4)前節の帰結

He was very tired and went to bed early.

「疲れていたので早く寝た。」

(「疲れていたから」「疲れていて」とも訳せる。and の前後が、原因と結果、理由とそれによる行為・現象で対比される。きつい順接と区別がつきにくいこともある。また、因果を強めに訳すと、押しつけがましく感じられることもある。)

#### (5)逆接

So rich, and he lives like a beggar

「金持ちなのに、彼は乞食のように暮らしている」

(「金持ちだが」「金持ちでいて」「金持ちのくせに」とも訳せる。and の前後が強く対照される。「そして」と訳して通じることもあるが、これは日本語の「そして」にも、逆接の感じが入ることがあるから：「金持ちだ、そして乞食みたいに暮らしている」)

#### (6)付加

He likes to read, and to read out loud.

「彼は本を読むのが、それも音読が好きだ。」

(「かつ音読が好きだ」「おまけに音読が好きだ」とも訳せる。and の前に言ったことにさらに言葉を付け加えるのだから、強調的な訳語になればよい。)

#### ・理解を深める

(以下はセミナーにて…)